

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年4月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100561
法人名	(有)グループホームひらかわ
事業所名	グループホームひらかわ
所在地	群馬県高崎市中里見町597-9 (電 話) 027-360-8050
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	

【情報提供票より】(20年 3月 31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 11 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤 10 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.14 人

(2)建物概要

建物構造	平屋 木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費12, 000円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200 円	昼食 500 円
	夕食	300 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要 (3 月 31 日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名
要介護3	3 名	要介護4	6 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79 歳	最低 65 歳	最高 92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	内科ふるしま医院 歯科かばさわ歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺は、農耕住宅地で梨林や梅林がある静かな環境で四季折々の景色を楽しみながら、利用者と職員はゆったり、のんびりと過ごされている。管理者、職員全員は連携を蜜にしなが、利用者一人ひとりの気づきや情報を基に日々話し合、一人ひとりに合わせた支援を行っている。状態に応じて調理方法、浴室やベッド等の工夫をし、より安心して生活が送れるようにしている。家族、地域、事業所等で共に協力し利用者の暮らしを支える体制ができている。ホームの歌を作り管理者自ら唄いCDに録音し、イベント等で利用者・家族・地域の方・職員等で共に唄い楽しんでいるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員全員が緊急時の研修を受講することが改善課題として上げられていた。研修の機会がなく受講していない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義や目的を伝え、職員の意見を聞き評価項目の内容を確認しながら自己評価の作成に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催しており、事業所から利用者の様子や行事報告等を行い、参加者から意見や要望を受けて話し合っている。そこでの意見等はサービス向上に活かしている。身体機能重度化の対応には、ベッドを介護用にする、入浴はリフト浴等の工夫に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議には、家族等に参加をしてもらい意見等を聴くように努めている。家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣者の人達とは、散歩の時に挨拶や話をしたり、野菜を届けてもらっている。食事会、夏祭り、クリスマス会等に近隣者の参加や手伝いをしてもらい一緒に楽しんでいる。地域の行事(どんど焼き、運動会、夏祭り等)に利用者と職員は参加をしている。またボランティア、実習生等の受け入れも行い交流をしている。事業所では缶拾い、道路清掃をボランティアで行っている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『ゆったり、のんびり』と事業所独自の理念を掲げているが、地域との関係性を重視した地域密着型サービスとしての理念の見直しはしていない。	○	「地域の中でその人らしくすることを支える」という地域密着型サービスの役割を職員全員で話し合いながら、地域生活の継続を支える事業所独自の理念をつくり上げていってほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、日々、折にふれて話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人達とは散歩の時に挨拶や話したり、野菜を届けてもらっている。食事会、夏祭り、クリスマス会等に近隣者の参加や手伝いをしてもらい一緒に楽しんでいる。地域の行事(どんど焼き、運動会、夏祭り等)に利用者と職員は参加をしている。またボランティア、実習生等の受け入れも行い交流をしている。事業所で缶拾い、道路掃除をボランティアで行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を伝え、職員の意見を聞き評価項目の内容を確認しながら自己評価の作成に取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しており、事業所から利用者の様子や行事報告等をし、参加者から意見や要望を受け話し合っている。そこでの意見等はサービス向上に活かしている。身体機能重度化の対応には、ベッドを介護用にする、入浴はリフト浴等の工夫に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口に出かけ相談したり、会議録を届ける、申請の手続き等で連携を図っている。介護相談員の受け入れもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には、健康状態や暮らしぶりを報告しており、また、個人のアルバムを作り見てもらっている。ホーム便りの発行と毎月身体状況、生活の様子を文章で送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。運営推進会議には、家族等に参加してもらい意見等を聴くように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるように努めている。職員が代わる場合は、利用者、家族に説明している。管理者、先輩職員が、基本的な対応の仕方等を指導をしながら共に支援にあたり、利用者へのダメージを防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が採用研修を6ヶ月以内に実施、継続研修を受けるようにしている。同業者との交換研修、認知症アカデミー、口腔機能について、グループホーム大会等に参加しており、研修報告をミーティング時に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、研修会等で交流を図っており、また西部ブロック研修委員会に所属し、交換研修等の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族からよく話を聴き、状況の確認をしている。見学し雰囲気を覚えてもらい、安心して利用に移行できるよう支援をしている。家族の協力を得ながら面会や時には外泊を勧めたり、入居理由の統一を図り対応する等、生活に馴染めるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のかかわりの中で、煮物の味付け、雛祭りのいわれ、ドライブの時に道を教えてもらうこともある。共に過ごし支えあう関係に留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人との会話等から思いや希望を汲み取るようにしており、表情や行動から真意を推し測るようにしている。意思疎通が困難な方には、家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聴き、介護計画に反映させるようにしている。職員の気づきや意見をミーティングで話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。モニタリングは担当者がチェック項目に沿って3ヶ月に1度行い介護計画の見直しに反映をさせている。	○	月に1回程度は、新鮮な目で本人や家族の意向や状況を確認するとともに、介護計画の遂行状況を評価し、職員の気づきや情報を基にケアのアイデアを話し合い、本人、家族に説明し確認しながら現状に即した新たな介護計画書の見直しをしてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の希望や状況に応じて、通院、送迎、買い物等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関の説明を行い、本人、家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療が受けられるよう支援をしている。受診や通院は本人家族の状況により対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者と職員は終末期に関しては、医療が必要になる最後まで生活を共にすることを共有している。状況変化に応じて家族、かかりつけ医、事業所等と繰り返し話し合い、家族の意向を確認しながら支援をしている。利用時に入院の場合は、希望病院の確認を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を大切に、言葉かけや対応に配慮しながら支援をしている。個人情報の取り扱いには留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に散歩、体操は決めているが、一人ひとりの体調に配慮し、その時の気持ちを大切にしながら、起床時間、散歩、体操、レクリエーション、庭に出る等、できるだけ利用者の希望にそって支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、切る、テーブルを拭く、下膳、お盆拭き等職員と一緒にやっている。食材の購入は職員と一緒に出かけている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回入浴日と決めてはいるが、職員が一方的に決めずに、利用者のその日の希望を確認して入ってもらっている。入浴を拒む人に対して、無理矢理でなく言葉かけや対応を工夫しタイミングに合わせた支援をするようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の皮むき、切る、モップかけ、お盆拭き、買い物、花の手入れ、買い物先でお茶にする、ドライブ、庭で過ごす、子供と遊ぶ、レクリエーション、花見等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、買い物、季節の花見、庭に出る等、利用者が戸外に出て外気にふれ楽しめるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状態を考えながら、鍵をかけない自由な暮らしを支援するよう努力をしており、日中は鍵をかけることを常態化していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年1回避難訓練、消火訓練を実施している。また、毎月避難訓練を実施している。地域の方には災害時の協力依頼はしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや咀嚼力、嚥下状態に合わせ、粥、刻み、ミキサー食等の工夫している。食事、栄養バランス、水分状況を記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳みコーナーにソファ等が設置されており、ホール内に観葉植物、季節の花が飾られ、壁に花の写真、ホールから桜やチューリップ、梨の花等の花が見られる。調理の様子やご飯の炊ける匂い等、生活感や季節感があり居心地良さがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には衣装箱、時計、家族写真、ぬいぐるみ等、持ち込まれており、本人が安心して過ごせる場所となっているよう見受けられた。		